

資料

2022年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・更谷有哉・石橋融子

当所で回答した動物に関連する問い合わせのうち、窓口依頼検査以外の内容について概要をまとめた。2022年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が117件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所・県警察等の県機関から98件、市町村から9件、一般県民から10件であった。前年度7件であった特定外来生物ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼は53件、前年度4件であった鳥インフルエンザ関係の同定依頼は33件と急増した。また、特定外来生物ゴケグモ類疑い種の同定依頼は9件、外来アリ疑い種の同定依頼は4件であった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、アリ、ハチ、クモ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では2022年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については一般的な不明種に関する同定依頼、ゴケグモ類疑い種（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ）の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、外来アリ疑い種（ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ）の同定依頼、鳥インフルエンザ関係同定依頼、生物多様性・外来種に関する一般的な質問、その他、の8項目に区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に2022年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全体で117件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多かったのは8月の21件で、次いで10月が17件、9月が15件であった。年間の問い合わせ件数は2010年度から2021年度が24~68件、平均50.1件であり¹⁾、問い合わせ件数は過年度と比べて激増した。これは後述するように、ツマアカスズメバチ疑い種と鳥インフルエンザ関係の同定依頼の件数の増加に由来する。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県機関からのものが最も多く、県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村または県民からの質問の仲介であった。市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。本年度は特に県機関からの依頼件数がきわめて増加した。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
不明種同定依頼			2	1	1	1	1				1			7
ゴケグモ類疑い	1		2		2	2	2							9
マダニ類疑い														0
ツマアカスズメバチ疑い	1	5	3	2	17	12	10	2			1			53
外来アリ疑い			3	1			1							5
鳥インフルエンザ関係	1						2	3	10	7	7	3		33
生物多様性・外来種	2	3					1							6
その他		1		2	1									4
計	5	9	10	6	21	15	17	5	10	9	7	3		117

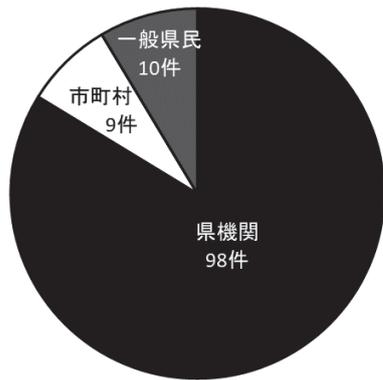


図1 2022年度における問い合わせ元の件数

問い合わせの具体的内容はツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼が53件と最も多く、次いで鳥インフルエンザ関係同定依頼(33件)、ゴケグモ類疑い(9件)が多かった(図2)。ツマアカスズメバチ疑い種として同定依頼があった53件のうち、ツマアカスズメバチであったのは3件で、その他で種まで同定できたのはヒメスズメバチ(12件)、キイロスズメバチ(8件)、コガタスズメバチ(7件)、コアシナガバチ(3件)、セグロアシナガバチ(3件)、オオスズメバチ(2件)、キボシアシナガバチ(2件)、エントツドロバチ(2件)、モンズズメバチ(1件)、ヤマトアシナガバチ(1件)、キアシナガバチ(1件)であった。

鳥インフルエンザ関係として同定依頼があった33件のうち、種まで同定できたのはホシハジロ(11件)、マガモ(3件)、ハシブトガラス(3件)、カルガモ(2件)、オシドリ(2件)、カイツブリ(2件)、ヒドリガモ(1件)、アオサギ(1件)、オオミズナギドリ(1件)、コミミズク(1件)、フクロウ(1件)、ハイタカ(1件)、ハヤブサ(1件)、ヒヨドリ(1件)であった。

ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった9件のうち、セアカゴケグモであったのは4件で、その他で種まで同定できたのはマダラヒメグモ(1件)、イエオニグモ(1

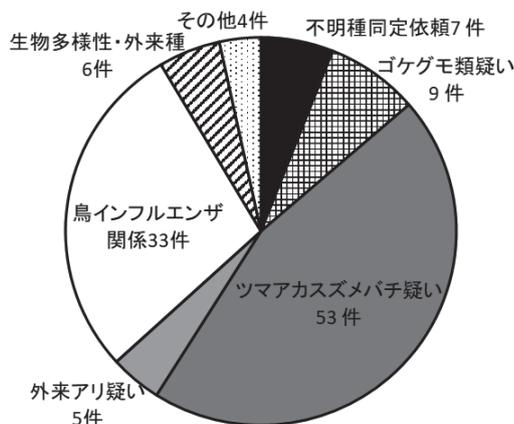


図2 2022年度における内容別の問い合わせ件数

件)であった。また、外来アリ疑い種として問い合わせがあった5件のうち、1件はヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ)疑い、4件はアルゼンチンアリ疑いであった。いずれも画像のみの依頼で不鮮明であったので、種の同定はできなかった。

不明種同定依頼において種まで同定できたのは、オオクビキレガイ、ヒメカツオブシムシ、ガイマイゴミムシダマシ、シロスジカミキリ、キオビツチバチ、クマタカであった。

2022年度における生物に関する質問内容の特徴として、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼と鳥インフルエンザ関係同定依頼の件数増加が挙げられる。前者は前年度に7件であったものが53件に、後者は前年度4件であったものが33件となっている。ツマアカスズメバチについては、2022年5月9日に福岡市においてツマアカスズメバチの女王バチが確認され²⁾、その後も5月から9月にかけて福岡市、久山町、篠栗町での確認が発表され³⁾、いずれも新聞やテレビ等のメディアで大きく報道されたことが問い合わせ件数の増加理由として挙げられる。また、鳥インフルエンザについては、2022年12月19日に糸島市での発生が確認され、その後3月までに家禽では合計4回、野鳥では合計6件の陽性が発表され^{4) 5)}、同様にメディアで大きく報道されたことが問い合わせ件数の増加理由として挙げられる。

本報をまとめるにあたり、クモ類の同定に際してご教示いただいた馬場友希博士(国立研究開発法人農業環境技術研究所)にこの場を借りてお礼申し上げる。

文献

- 1) 中島 淳, 石間妙子, 濱村研吾: 福岡県保健環境研究所年報, 49, 104-105, 2022.
- 2) 環境省九州地方環境事務所: 報道発表資料 福岡県福岡市におけるツマアカスズメバチの確認について【5月9日】, https://kyushu.env.go.jp/pre_2022/post_158.html (2023年7月21日アクセス)
- 3) 福岡県: 特定外来生物「ツマアカスズメバチ」に関するお知らせ, <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/tumakasukamebati.html> (2023年7月21日アクセス)
- 4) 福岡県: 高病原性鳥インフルエンザの発生に関する情報, <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/bird-flu-2022portal.html> (2023年7月21日アクセス)
- 5) 福岡県: 野鳥における高病原性鳥インフルエンザについて, <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/shizentorifuru.html> (2023年7月21日アクセス)